



TITLE:

Labour Footprint: A framework to assess the use of socially undesirable labour in a complex economy(Abstract_要旨)

AUTHOR(S):

JORGE, ESTEBAN GOMEZ PAREDES

CITATION:

JORGE, ESTEBAN GOMEZ PAREDES. Labour Footprint: A framework to assess the use of socially undesirable labour in a complex economy. 京都大学, 2015, 博士(エネルギー科学)

ISSUE DATE:

2015-03-23

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/199412>

RIGHT:

学位規則第9条第2項により要約公開; 許諾条件により要約の公開日は未定

(続紙 1)

京都大学	博士（エネルギー科学）	氏名	Jorge Esteban Gomez Paredes
論文題目	Labour Footprint: A framework to assess the use of socially undesirable labour in a complex economy (労働フットプリント：複雑な経済における社会的に望ましくない労働の利用を評価するための枠組み)		
(論文内容の要旨)			
<p>持続可能な社会の構築が国際的に重要な目標となっている。目標達成のためには資源・環境問題への対処と共に社会問題の解決も重要な課題である。その中で、児童労働、男女格差、奴隷労働などの解消が貧困問題への対応と共に重要であり、国際労働機関（ILO）においても様々な取り組みがなされている。一方、環境や資源については、問題発生の部分だけに注目するだけでなく、サプライ・チェーンの中でどのように内包されているかを追跡し指標化することがなされており環境フットプリントなどの名前で知られている。本論文では、労働問題指標について同様にサプライ・チェーンを通じてどのように内包されているかを現す指標として、労働フットプリントの提案とその構成について論じたもので6章からなっている。</p> <p>第1章は序論で、持続可能性という観点からみた労働問題についての概観ならびにフットプリントの概念について紹介した後、社会問題のフットプリント指標の可能性について述べた後、本論文の目的について述べている。</p> <p>第2章は研究の背景で、フットプリント構築のための方法として積み上げ法、産業連関分析法を紹介しそれぞれのメリット、デメリットについて述べた後、本論文で採用する産業連関分析について更に詳細に紹介している。その後、本論文でケーススタディとして用いるインドの産業連関表と労働統計について紹介し、それらのデータを接続する方法について述べている。</p> <p>第3章は児童労働に関して分析している。世界における児童労働の実態、その中で特に多いインドの状況について紹介し、それがサプライ・チェーンを通じて世界中に影響が波及している社会経済状況について述べている。その後、本研究で対象とする児童労働について定義し、インドの児童労働の状況について分析している。さらに、産業連関分析に児童労働を組み入れサプライ・チェーンを通じて波及する状況を分析している。その結果、直接間接合わせて建築業及び米、小麦を始めとする農産業に集中していること、綿花栽培が単位売上あたり最も多くの児童労働が関与していること、タバコ産業に少女の労働が集中していること、それらの結果として食品産業に間接的に児童労働問題が内包されている結果について述べている。さらに、インドから貿易を通じて世界に波及している状況について調査し、米国にこの問題が多く波及していることを明らかにしている。</p>			

第4章は労働フットプリントという概念の提案である。ILOのガイドラインに沿って、6種類の要素、すなわち団体交渉権の確保、強制労働の排除、児童労働の排除、男女間の賃金格差の排除、危険労働の排除、社会保障の確保に焦点を当てている。そして、これらの観点についての産業連関分析を通じた定量的な評価法の確立、それぞれの包含関係を考慮した計算法について述べた後、インドを例としてこれらのフットプリント指標構築を試みている。その結果、大きなフットプリントを示した産業として、漁業（児童労働）、ミルク産業（強制労働）、ジュート産業（団体交渉権）、綿花産業（危険労働）、タバコ産業（社会保障）、鉱業（男女賃金格差）などが特定された。さらに、それらの波及効果として、建設、電気製品、鉄道運輸などへの波及について調査し、直接間接を含めた労働フットプリントの意味について考察している。

第5章は労働フットプリントと環境フットプリントの比較検討を行い、相互関連について分析している。それぞれの指標を統合して、コーヒと紅茶産業、綿花、絹、羊毛産業について比較検討を行い、その特徴について述べている。さらに、一般的に全産業について検討し、労働フットプリントと環境フットプリントの間にトレードオフの関係が存在していることを見出し、マクロ経済学の観点から分析を行なっている。すなわち、労働生産性向上を図る一方策は機械化であるが機械化を進めるとエネルギー消費量が増加し、それに付随する温室効果ガス排出量が増えるという関係が存在していることを示している。

第6章は全体を通じての要約と結論を述べた後、労働フットプリントの発展と課題について述べている。

本論文には、分析に用いた各種データとプログラムが付録に掲載されている。

(続紙 2)

(論文審査の結果の要旨)

持続可能な社会の構築は重要な目標となっており、目標達成のためには資源枯渇や環境破壊などへの対処は勿論であるが、社会の安定秩序の観点から労働環境の適正化も重要な因子である。本論文は国際労働機関(ILO)のガイドラインにある望ましくない労働に関して、それが商品、サービスに直接・間接的に含まれている構造を産業連関分析により調査し、世界的な規模で評価する枠組みである労働フットプリントを提案したもので、具体的には次に示す4つの結果を有している。

- 1、 インドを例に取り、社会統計調査から産業連関分析に提供できる労働環境指標を整理し、インド国内の産業連関表を用いて、特に児童労働が直接・間接的に商品・サービスに与える影響を評価し、問題を有している産業を特定した。
- 2、 更に、多国間産業連関表を用いて、インド国内の児童労働が世界にどのような影響を及ぼしているかについて評価し、90%以上は国内消費に影響しているが、外国では米国の消費にその多くが波及していることを明らかにした。
- 3、 ILO のガイドラインに従い、団体協約、強制労働、児童労働、男女差別、危険労働、社会保障という観点で望ましくない労働の利用を評価する枠組みとして労働フットプリントの算出法を確立し、インドにおける労働問題に適用した。
- 4、 インドを例に取り、労働フットプリントと環境フットプリントとの関連性について持続可能性という観点から検討し、トレードオフの関係を見出した。

本研究は、社会的に望ましくない労働が世界経済に与える影響について評価する枠組みを提案し、インドにおける労働力調査に基づき実例を示し、定量的な評価が可能であることを立証した。

以上の研究は、ある地域の労働問題が世界的にサプライ・チェーンを通じて波及している状況を顕在化する指標について、その構築から応用まで調査したもので重要な成果を含んでおり、学術上、實際上、寄与するところが少なくない。

よって、本論文は博士(エネルギー科学)の学位論文として価値あるものと認める。また、平成27年2月23日実施した論文内容とそれに関連した試問の結果合格と認めた。

学位論文の全文について、京都大学学位規程第14条第2項に該当するものと判断する場合は、以下の文言を入れてください。

なお、本論文は、京都大学学位規程第14条第2項に該当するものと判断し、公表に際しては、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものとすることを認める。

論文内容の要旨、審査の結果の要旨及び学位論文の全文は、本学学術情報リポジトリに掲載し、公表とする。ただし、特許申請、雑誌掲載等の関係により、要旨を学位授与後即日公表することに支障がある場合は、以下に公表可能とする日付を記入すること。

要旨公開可能日： 年 月 日以降